

開館20周年記念講演会開催要項

1. 開催の趣旨

宮入慶之助は更級郡西寺尾村（現在の長野市松代町西寺尾）に1865年（慶応元年）に生まれ、小学生の頃から隣県の甲府盆地における奇妙な風土病が流行しているの聞き、原因を究明したいという思いで東京大学医学部で医学を学ぶ。ドイツ留学を経て、京都帝国大学福岡医科大学（現九州大学医学部）に着任後、筑後川流域でも甲府盆地と同じような風土病があることを知り、調査研究を重ね、1913年（大正2年）7月に佐賀県鳥栖市で黒いまきがイ（ミヤイリガイ）の発見後、日本住血吸虫症の媒介（中間宿主）であることを突き止める。このまきがイ（ミヤイリガイ）の発見後、日本住血吸虫症の流行地（筑後川流域、広島県福山市、山梨県甲府盆地など）では撲滅に向けた取り組みが始まる。アフリカなどの流行地でもこの日本でのミヤイリガイの発見を契機として、別のまきがイ（中間宿主）の発見となり、宮入慶之助がノーベル賞候補にあらがることがあった。

国内で最後に流行終息宣言が出されたのは、甲府盆地で1996年（平成8年）のことであり、つい最近のことである。日本では日本住血吸虫症は終息したが、アフリカ、アジアなど世界各地ではまだまだ多くの感染者が発生し、人々が苦しんでいるのが実状である。

この日本住血吸虫症の中間宿主ミヤイリガイを発見し、日本における撲滅に大きな役割を果たしたのが宮入慶之助である。記念館では、常設展示、記念誌の発行、小学校での紙芝居、出前展示など様々な活動を行ってきたが宮入慶之助の業績はまだまだ多くの方の知るところとはなっていないのが実状である。

開館20年を経て、改めて日本の医学史における宮入慶之助の果たした役割を再認識し、現代に生きる私達、さらにこの先の未来にも伝えていくために、20周年記念事業を開催するものとする。

2. 主催 非営利活動法人宮入慶之助記念館（長野市篠ノ井西寺尾2322）

3. 開催日 2019年11月16日（土）（実際の記念館開館日は1999年11月27日）

4. 会場 総合福祉施設やすらぎの園 2階むつみホール（長野市篠ノ井杵淵213-4）

5. 内容 講演会（13時30分から～16時50分）

①宮入慶之助記念館20年の歩み～各種関連資料を求めて～

宮入建三（宮入慶之助記念館研究員）

②「ミヤイリ貝とたたかった一地方の80年」

栗袋 勝（元山梨県衛生公害研究所副所長）

③「東アジアの日本住血吸虫症対策～ミヤイリガイとの戦いの終章に向けて～」

太田伸生（東京医科歯科大学名誉教授）

④「宮入慶之助の生涯をふりかえる」

山口 明（宮入慶之助記念館館長）

6. 参加費 無料

7. 後援 篠ノ井地区住民自治協議会
松代地区住民自治協議会